

(別添 3)

【愛荘町】  
校務DX計画

## 1 校務DX化の現状及び成果

当町では、教職員の働き方改革、教育活動の高度化及びレジリエンスの確保の実現を図るため、以下のとおり次世代校務DX環境を整備し、令和5年4月から運用を開始させた。

### (1) 校務系・学習系ネットワークの統合

GIGAスクール当初では、校務系ネットワークと学習系ネットワークを分離し、学習系ネットワークがインターネットに繋がる構成は、6小中学校の「集約接続」で回線速度は1Gbpsであったが、次世代校務DX環境の整備にあたり、校務系・学習系ネットワークを統合し、学校からインターネットに直接つながる「直接接続」に改め、インターネット回線速度についてもそれぞれの回線を10Gbpsに増強した。

### (2) クラウド型校務支援システムの整備

当町では、平成29年度に統合型校務支援システムを導入したが、オンプレミスの運用であり、進学時や町内転校の場合にデータの引継ぎができず、管理・運用が学校ごとで完結してしまうなど、システムの発展的な使用に課題が生じていた。また、コロナ禍においては、教職員が場所を問わずに働ける環境の構築が必要と考え、更新のタイミングでネットワーク統合と汎用クラウドツールの活用を前提とした、パブリッククラウド上で運用できる次世代型校務支援システムに移行し、セキュリティを担保した上でロケーションフリーを実現している。

### (3) 校務・端末の1台化

教員が授業で使用する指導者用端末としてiPad端末を整備していたが、校務用端末を更新するタイミングで、指導用端末と校務用端末を1台化する方針を示した。新たな校務用端末は、持ち運び可能なタブレット型とし、職員室では業務用ディスプレイに接続することで快適に事務作業を進められるよう配慮した。

### (4) 汎用クラウドツールの活用

ファイルサーバをクラウド環境で構築しており、「学校間」、「学校と教育委員会間」の文書や資料の送付、データの授受等に活用している。また、教職員全員に校務用個人メールアドレスを付与しており、外部との連絡に活用できる状態にある。

### (5) その他、クラウドサービスの利用について

コロナ禍での健康観察や出欠席連絡を円滑にするため、令和4年度に健康観察アプリを導入した。5類移行後も健康観察アプリの活用は継続し、欠席等に係る学校への連絡や学校から保護者への手紙等の配信を実施している。また、令和6年度では、テストの採点を効率化するデジタル採点システムを中学校に導入した。

## 2 校務DX化の課題

1の現状及び成果のとおり、校務DXを推進するための基盤整備は概ね終えているものの、以下の課題が挙げられる。

### (1) 業務の在り方の抜本的な見直しや削減

令和5年度の「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検においては、FAXを原則廃止している学校がなく、学校から保護者へ発信するお便り・配布物は紙媒体を基本にしているなど、業務のデジタル化を推進できる環境にありながら改められていない。

### (2) 各種システムのデータ連携

校務支援システムや学習eポータル、保護者連絡システム、デジタルドリルなど、データ連携を見据えたメーカー製品を選定しているが、システム連携にあたってのコストメリットが異様に小さいことから、システム連携に踏み切れていない。

### (3) 教育ダッシュボード<sup>1</sup>の導入

教育ダッシュボードを導入・運用することで、個別最適化された学習、問題の早期発見と支援、教員の指導力向上や業務効率化など教育の質を向上させる効果が得られるとされる一方、「校務系データ」と「学習系データ」の連携に係る技術的問題や品質、ランニングコストなどのリソースの確保、教員がダッシュボードを効果的に活用するためのスキルやマインドセットなど、多様な課題がある。

## 3 校務DX化の今後の計画

2の課題に基づき、以下のとおり校務DXに向けた検討を進める。

### (1) クラウドサービス活用の拡充

- ・ Microsoft Teamsをはじめとするグループウェアを活用し、チャットおよびファイルの共同編集など、コミュニケーションの円滑化を推進する。
- ・ 令和7年度より、新たな保護者連絡システムの導入を予定しており、これを機に、学校から保護者へ発信するお便り・配布物のデジタル化を全町で進める。また、保護者の利便性の向上やコミュニケーションの円滑化を図るため、学童保育所などの教育委員会外でも同システムを活用できる体制を整備・検討していく。

### (2) 各種システムのデータ連携に向けた検討

- ・ 各種校務支援システム等に関する調査や研究を行う。
- ・ 教育委員会として、今後の教職員の働き方像を描きながら、次期システム等の整備方針を決定する。
- ・ 教育ダッシュボードの導入に向けては、その目的を明確にし、教育委員会として真に収集が必要なデータを把握する必要がある。教職員へのアンケートやヒアリング、また先進自治体の事例を参考にしながら検討を進めていく。

---

<sup>1</sup> 教育ダッシュボード：成績や出欠席情報、授業における端末の利用状況などの教育データを集約・可視化し、分析を行う教員用のシステム